

平成28年度 学校評価実施報告書

幼稚園名( 京都市立開智幼稚園 )

1 1回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力・豊かな心・健やかな体	保育の改善・充実	園庭、歴博グラウンドも活用し、体を十分動かし遊び、心の安定と運動機能の発達を促す。一人一鉢栽培、「かいち大自然」プランの充実。絵本ノートの活用と絵本室の環境整備、保護者啓発を進め100冊達成率を高め、言語の獲得、感性、知的好奇心を高める。	安全点検表、絵本ノート、環境整備実績、栽培計画と実施、学級ごとの遊びや園行事の計画と実施、週案への記載、懇談会、保護者の声、月だより、アンケート
	幼小接続の視点	洛央小学校と年間交流計画を作成し、複数学年との交流を互恵的に実施すると共に幼稚園での生き方探究教育の素地について探る。おたより等で情報交換する。	交流の年間計画立案、実施と振り返り、教職員も含めた相互訪問等の実績、アンケート
	心と体・生活習慣	早寝・早起き・朝ごはん、手洗いうがいの習慣化、気候に合った服装、熱中症対策、感染症予防等を家庭と連携して取り組む。丁寧な健康観察、月例保健指導を行う。	出席簿、保健簿、月だより、各種検査結果、環境整備実績、週案の記載、懇談会、保護者との会話、アンケート
園独自の項目	信頼関係・折り合い・自己肯定感	発達段階に応じた集団を意識した保育、縦割りのメンバー構成による保育等、少数園ならではの年齢を越えた人とのかわりを促す。教職員全員が保育に参画するようにする。	週案の記載、関わりの生まれる学級ごとの遊びや園行事の計画と実践事例、懇談会、保護者の声、月だより、アンケート
	感謝と未来へつながる保育	年度末の閉園を見据えた、子どもの育ちや感謝の心、次年度への希望が膨らむ保育の年間を通した計画と実践を保護者と共に進める。	週案の記載、閉園を見据えた学級ごとの遊びや園全体の行事の計画と実践事例、懇談会、保護者の声、月だより、アンケート
	次年度転園に向けた幼幼連携	楊梅幼稚園への転園を見据えた園児や教職員、保護者の交流、現3歳児と楊梅幼稚園ひよこ組の子どもたちとの交流を共同研究、実践する。	交流を柱に据えた共同研究、交流の年間計画立案、実施と振り返り、教職員も含めた相互訪問等の実績、アンケート
	伝統の息づくまちの子ども	祇園祭をはじめとした祭、節句、餅つき等伝統的な催しに関わったり、竹馬、こま回し、風揚げなど昔ながらの遊びに親しんだり、和紙、織物などで作るなどしたりして活動を通して伝統的なものに触れる。	週案の記載、伝統的なもの・こと・人と関わりの生まれる遊びや園行事の計画と実践事例、懇談会、保護者の声、月だより、アンケート



・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成28年10月21日
	評価者・組織	企画委員会
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
一人一人の子どもに指導が行き届き、幼児の発達に沿った保育内容で、子ども達も安心して園生活を過ごし、「本物の体験」を通して心も体もたくましく成長している等アンケート結果も概ね良好である。	各学年に応じた成果と課題が見られるが、概ね良好であることに甘えることなく、子どもたちの日々の育ちに寄り添っていくための教職員の力量をつけていく。	各学年に応じた成果と課題が見られる。引き続き、エピソード研修や研究保育で深め、教員の力量をつけていきたい。特に少人数の4歳児は、他学年や楊梅との交流を通して心を動かす体験を積み重ねていきたい。
洛央小学校との幼小連携は、年長児の保護者からも喜ばれている。子どもたちにとっても就学への期待が高まり、安心につながっている。しかし、実際入学すると、小学校への抵抗が大きく、馴染むのに時間がかかるという話を聞く。	ある程度の成果は見られるが、連携をしていたのにもかかわらず、抵抗があるというのが気になる点である。交流の年間計画の甘さや教職員相互の話し合いなど少ないのが課題かもしれない。小学校に向けて幼児の心身の育ちについて伝え、相互に理解を深める機会をもつことが必要ではないか。	幼児教育では、主体的に環境にかかわり、遊びを中心とした保育を大切にしていること、遊びや生活を充実させることが学びに向かう力の育成となっていることなどを教委作成パンフレット等も普及し具体的に伝えていく必要がある。楊梅幼稚園へも引き継ぎたい。
流行性耳下腺炎による出席停止(5月)。大きなけが、病気による欠席は無い。早寝早起き朝ごはんを保護者にも協力要請元気に過ごせているが、基本的生活習慣の確立していない子どもも見られる。定期健康診断の結果を受けての、事後指導、受診率良好。保健指導の計画的実施。	手洗いうがい習慣化しているが、流行性耳下腺炎による欠席が増えた。月だよりのお知らせ、毎月の保健指導により、保護者、子どもの健康志向の意識高まった。子ども自ら健康管理や成長を意識する言葉を話すことが増えた。	今後も手洗いうがいの声かけを積極的に行うなど衛生面に充分配慮する。発育測定(からだのようす)や月だよりなどで家庭との連携を大切にしながら体調管理を行っていきたい。成長過程に合った保健指導をし、子ども自ら基本的生活習慣を確立できるようにする。
担任を中心とした信頼関係を基盤として園内の教職員への安心感も生まれている。心の安定からさまざまな環境に興味を示し、かわろうとする意欲も育ってきている。運動会などの体を動かす遊びからさまざまな葛藤を経験したが、その中で教師や友達と話し合い、折り合いをつけられるようになったり、自分の力に気づき、肯定感を持てるようになった子どもも多く、保護者からもその姿を喜ぶ声を聞いている。	自分の思いを全身を使って生き生きと表現することはできるが、思いが強すぎて思うようにならないと気持ちの折り合いがつけられなくなることがある。家庭でも大切に育てられ、幼稚園においても少人数の中で育っているの、友達や教師の話を聞く、譲る、思いやりの気持ちを持つなど心の面の育ちにやや課題が見られる子どももいる。	安心安定している姿に喜びを感じながらも、集団生活においてみんなが気持ちよく生活や遊びを進めるためにはどうしたらよいかを考え、気づける子どもに育つように園内の教職員で共通理解していきたい。また、一人一人の子どもの成長を普段から伝え合える教職員のつながりも大切にしたい。
一学期については入園、進級、学級づくりに主眼を置いて保育を進めたが、夏休み明けより閉園について発達段階に応じて、折に触れて伝えたり、保育内容に含めたりするようにした。運動会のテーマも「だいすき開智幼稚園運動会」として取り組み、アンケート結果からも好評を得ている。	それぞれの学年が2学期に入り、運動会を経験することで随分安定し、たくましさも感じられるようになって来ている。これを土台として幼稚園の楽しさ、感謝の気持ち、楊梅幼稚園への期待などがふくらむ取組へとつなげていきたい。	楊梅幼稚園の移転先である元有隣小学校跡は工事のため子どもたちも大人のイメージがもたないが、プランターに花の苗を植えたり、球根を植えたりしてそれを楊梅・開智両園で持ち寄ろうとの計画を進めつつある。開智幼稚園に対してありがたい気持ちが醸成され、高まっていくよう机、椅子など身近なものも心をつなぐ保育を進めるようにする。
京都市立幼稚園教育研究会において、楊梅幼稚園とは統一研究テーマを設定し、両園でそれぞれ子どもたちの交流を主軸とした合同保育を実施した。その他日常的な教職員間の交流や合同の園外保育等を実施した。開智幼稚園3歳児年少組と楊梅幼稚園3歳未就園児クラスとの交流の場もあった。	交流することで子どもたちがより身近にお互いを意識するようになったり、良い刺激を受け与えることができた。特に3、4歳児は来年度の転園先である楊梅幼稚園に親しみをもちつつある。また、教職員間でも研究保育や合同行事の打ち合わせ等できれば顔を合わせるなどして交流、連携を強めてきている。今後、保護者間でも親交を深めるようにしたい。	子どもたちは随分顔の見える交流が進んでいる。直接会うことがなくても親交を深めたり、移転後の楊梅幼稚園に希望を膨らませたりするような保育を進めるようにしたい。PTAを中心にした保護者同士の交流の場も園と一緒に進めていけるように検討したい。
五月人形を飾ったり、七夕の笹飾りを親子で作ったり、和菓子屋さんから寄贈の行事に困んだ和菓子を用意して伝統的な行事に親しみ楽しんだ。竹馬、けん玉、絞り染めなど昔ながらの遊びや手仕事を体験し、園生活に深く根付かせる取り組みを進めた。手機を導入し、触りたいときに触れるように生活の流れを見極めていくところである。	季節に因んだ伝統的な行事は保育計画に位置付け発達段階に応じてそれぞれ取り組み子どもたちの身近なものとなっていた。昨年中止になった祇園祭山鉾見学や開智子供みこしなども本年は実施でき、子どもだけでなく保護者にも身近に伝統文化に触れる経験ができることを実感してもらうことができた。	引き続き竹馬やけん玉や風揚げ、羽根つきなど子どもたちの遊びや、もちつきなどの昔ながらの行事を通して伝統的文化的活動に親しめるようにしていきたい。手織り機もより身近に親しめるような環境にしていきたい。



学校関係者評価	
評価日	平成28年10月26日
評価者 (いずれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
開智幼稚園も閉園まで残すところ5か月余りとなった。最後まで保育の充実を図っていただき、閉園という現実を踏まえていい形で終わっていただきたい。	開智自治連合会として協力できることがあれば、要請してほしい。また、教育委員会とも相談して、保護者の不安を軽減できるようにしてもらいたい。
小学校で年長児と交流の機会をもったが、普段馴染みのない小学校の教師の話をしっかり聞いて、指示に応じる姿が見られた。新しい環境になっても困りが無いように指導してもらっていると感じ	幼小の交流は幼児にとっても小学生にとってもプラスである。今後も連携して取り組みを進めたい。12月にはキャリア教育研究全国大会の公開授業にも参加してもらおう。
運動会で子どもたちの元気な姿を見た。よく頑張っていた。やはり家庭の協力が大切だろう。	これからも積極的に学校歴史博物館のグラウンドを使うなどして元気に遊び、病気に負けない体力をつけてほしい。
どの学年も運動会を経験してから年度当初に比べて随分たくましさが見られるようになったとうかがった。運動会ではいきいきとした子どもの姿が見られ、一体感が感じられた。保護者や教職員も一緒になって作り上げているように感じた。元気をもらった。	残りわずかになって来たが、最後まで保育の充実を考えていただきたい。地元としても協力できることがあれば、協力する。
楊梅幼稚園との交流を盛んに進めてもらっている。開智幼稚園の閉園はさみしさもあるが、それだけではない。来年度の転園、新しい場所への移転が楽しみになるように進めてほしい。	開智幼稚園が閉園することを地元だけでなく、広く通園区域の住民にも知らせることが必要であろう。催し物等も開き足を運んでもらえるようにしたい。
楊梅幼稚園と交流をして子どもたちは楽しく遊べているようだ。新しい環境でも友達と仲良くできる状態をつくっていただいてい	残りの期間でさらに子どもたちの交流を深めて、新年度がスムーズにスタートできるように保護者同士も交流するようにしたい。
運動会で年長児が竹馬を乗りこなしていた。単に乗れることがねらいではなく、心の成長もあるように思う。今年の子供みこしや山鉾見学など様々取り組み良い経験ができてよかった。	地域の高齢者は、昔の玩具で遊んだり、お茶会体験、餅つき大会などのゲストティーチャーとして協力したりできる。



平成28年度 学校評価実施報告書

幼稚園名( 京都市立開智幼稚園 )

2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
	評価項目	(1回目評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力・豊かな心・健やかな体	保育の改善・充実	気温が低くなるが、外遊びを進め、園庭、庭博グラウンドも活用し、マラソンで一日を始めるなど体を十分動かし遊び、心の安定と運動機能の発達を促す。絵本ノートの活用と保護者啓発を進め100冊達成率を高め、言語の獲得、感性、知的好奇心を高める。	安全点検表、絵本ノート、環境整備実績、朝のジョギングとジョギング大会の実施、学級ごとの遊びや園行事の計画と実施、週案への記載、懇談会、保護者の声、月だより、ア
	幼小接続の視点	引き続き、洛央小学校と年間交流計画をもとに、互恵的に複数学年と交流を進める。キャリア教育について幼稚園での素地について探る。おたより等で情報交換する。	年間計画を基にした、交流活動の実施と振り返り、教職員も含めた相互訪問等の実績、アンケート
	心と体・生活習慣	早寝・早起き・朝ごはん、手洗いうがいの習慣化、気候に合った服装、インフルエンザ等感染症予防等を家庭と連携して取り組む。丁寧な健康観察、月例保健指導を行う。	出席簿、保健簿、月だより、保健指導資料作成、環境整備実績、週案の記載、懇談会、保護者との会話、アンケート
	信頼関係・折り合い・自己肯定感	引き続き、発達段階に応じた、集団を意識した保育、縦割りのメンバー構成による保育等、少人数園ならではの年齢を越えた人とのかわりを促す。とりわけ、年中児と年少児の関わりを意識し、教職員全員が保育に参画するようにする。	週案の記載、関わりの生まれる学級ごとの遊びや異学年間の関わりが生まれることを意識した園行事の計画と実践事例、懇談会、保護者の声、月だより、アンケート
園独自の項目	感謝と未来へつながる保育	年度末の閉園を見据えた、子どもの育ちや感謝の心、転入する楊梅幼稚園の移転先への希望が膨らむ保育の計画と実践を楊梅幼稚園と連携して進める。保護者にも理解と協力をいただく。	週案の記載、閉園を見据えた学級ごとの遊びや園全体の行事の計画と実践事例、懇談会、保護者の声、月だより、アンケート
	次年度転園に向けた幼幼連携	引き続き、楊梅幼稚園への転園を見据えた園児や教職員、保護者の交流、現3歳児と楊梅幼稚園ひよこ組の子どもたちとの交流を共同研究、実践する。	交流を柱に据えた共同研究、交流の実施と振り返り、保護者や教職員の相互訪問等の実績、アンケート
	伝統の息づくまちの子ども	節句、餅つき、お茶会等伝統的な催しに関わったり、竹馬、こま回し、風揚げなど昔ながらの遊びに親しんだりする。和紙など伝統的な素材に触れて作ったり、機織り経験をするなど活動を通して伝統的なものに触れる。	週案の記載、伝統的なもの・こと・人と関わりの生まれる遊びや園行事の計画と実践事例、懇談会、保護者の声、月だより、アンケート



・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成29年3月7日
	評価者・組織	評価委員会
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
閉園に向けた取組と呼応して環境整備を実施。朝のジョギングが朝の生活の流れに定着し、活発に遊ぶ姿が見られた。	寒い日も、暖房器具のある室内での遊びが中心になるようなことなく、屋外でも元気に遊べた。マラソンで一日のリズムを作ることができた。ボール遊び、縄跳び、大人数での鬼ごっこ、一輪車、自転車、風揚げ等運動遊びの環境設定や援助を心がけ、運動遊びの幅が広がりが量が多くなった。保護者の協力も得て、絵本ノートを活用しながら100冊達成をめざした。ほぼ100%の達成率であった。年度末までに100%を目指し、絵本が親子の身近にある生活になっている。	更に長い目で見た環境設定の年間計画を心がけ、遊びの幅を広げるようにしたい。
ほぼ予定通りの交流活動を実施したが、幼小の教職員間の協議は十分とはいかなかった。	園児が小学校へも移動したり、小学校が来られていたりして、行き来ができた。洛央小学校のキャリア教育の全国発表の当日にも交流の機会を作っていたという。そのための教員の打ち合わせを行うことで、互いの教育の一端を知る機会となった。閉園後は楊梅幼稚園と交流ができるようにしたい。京都市キャリア教育スタンダードを意識した取り組みにすることでさらに取り組み方や課題が探れたのではないかと、就学に向けて子どもへの情報伝達、交換の場を設けていただけたことができた。	年度始めではその年度の交流計画は立てにくいので、なるべく前年度のうちに打ち合わせの機会がもてるようにしたい。転園後も交流が途切れないようにしたい。
大きなけが、長期間にわたる病気による欠席はなかったが、インフルエンザによる学級閉鎖があった。資料を作成し保健指導を園外保育、生活発表会等様々な機会をとらえて異年齢の関わりが生まれるようなはたらきかけを行った。保護者からも発達の道筋が見られてよかったとの声があった。	家庭と連携して、早寝・早起き・朝ごはん、手洗いうがいがいずいぶん意識化、行動化されているようである。保健指導や資料等も効果的だったのではないかと。長欠、大きなけが等はなかったが、残念ながらインフルエンザの流行によって学級閉鎖することになった。油断なく丁寧に継続的に指導したい。	引き続き園と家庭とが地道に連携して発達段階に沿った生活習慣の確立を目指すようにする。
保育室や遊具などに感謝して自分たちできれいにしたり、感謝や希望をもつ歌やことばなどに接したり、表現したりした。保護者も取組にかかわりを持っていた。	環境設定や援助の工夫等によって、異年齢が自然に生まれるようになってきた。年長児へのあこがれや年少児への思いやりのある接し方など自然な形で見られる。園外保育等でも年少児と年長・年中児が手をつないで歩くことに抵抗が減るなど、信頼関係が強まってきているようである。教職員間でも情報共有を進めてきた。	異年齢の触れ合いが互恵的に意味あるものであるように、教職員間で機会あるごとに話し合うようにしたい。
交流を柱に据えた共同研究を行うことができた。有隣園舎で子どもも保護者も出会いの場を設けるなどして、転園の具体的なイメージがわいたのではないかと。	有隣園舎での保育を見据えて保育環境を両園で相談したり、園児同士の交流、保護者同士の交流、来年度同じ組になる現3歳児と現3歳未満就園児の交流の場も設けることができた。年間を通じて統一テーマで閉園・転園を前向きにとらえた研究、実践を進めることができた。	新しい環境、新しい人間関係など不安や戸惑いが予想される。それらにどのように軽減解消するか、教職員間で共通理解して取
伝統的な行事を計画的に実施することができた。保護者や地域の方にも行事等にかかわっていただくことができた。	収穫した芋を使った、焚火での焼き芋、PTA、おやじの会等にお手伝いを得て盛大に開いた餅つき大会、雪を敷いた場でのお茶会、雛人形づくりのお話を聞く会等、催し物を実施し、ほんまもんじに接することができた。遊びの中に取り入れる姿や表現が見られた。地域の方にもお世話になり、顔見知りになったりしている。	新しい環境でどれだけこれまでの取組が実践できるかわからないが、できることを工夫を凝らしながら取り組むようにしたい。地域や保護者とも協働できるように働きかける。



学校関係者評価	
評価日	平成29年3月10日
評価者 (いずれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
冬場も元気に屋外で遊べていることは結構な事である。ジョギング大会など元気に走る姿が見られた。幼児期に絵本にどンドン親しませてほしい。	地域で協力できることがあれば、協力するようにする。
閉園しても、幼小での交流は絶やさないで、できることを続けてほしい。	洛央、下京雅小学校をメインに楊梅幼稚園との交流を引き続き進めるように協力する。
幼児期は親の果たす役割が大きい。基本的生活習慣が身に付くよう家庭と協力して取り組んでほしい。	地域でも子育て支援をしている。協力できることがあれば協力するようにする。
遠足等で年長児と年少児が手をつないで歩く姿を見るがほほえましく大事な事である。普段から自然に触れ合えるようにしておいてほしい。	地域の行事でも異年齢の交流が楽しくできるよう取り組んでいる。
閉園や転園など大変苦労して進めてもらっている。引き続き子どもや保護者の不安や心配を和らげるよう取り組んでほしい。	新しい場所でも安心安全に過ごせるように見守りたい。特に自動車が門の前をスピードを出して走るの
子どもや保護者の不安や戸惑いを考えると楊梅幼稚園に開智からもある程度の人員を配置してもらいようにするのが望ましいの	環境や人間関係など大きく変わるが、子どもたちのために頑張っていたくださう応援している。
有隣でもできるだけのことを工夫してやってほしい。	地域で協力できることはいろいろあるだろう。利用できるところは利用してもらったらい。

3 総括・次年度の課題

開智幼稚園の閉園の年度ということであったが、まずは普段の保育を大切にすることを念頭に置くようにした。いきなり閉園を前面に出すのではなく、まずは幼稚園が楽しい場所であることを大事にし、幼稚園が大好きな気持ちを十分に膨らませつつ感謝へと高めていくようにした。一方、転園先となる楊梅幼稚園や有隣園舎との心のつながりを強めていき、スムーズに移行できるよう両園で連携を深めながら取り組むようにした。しかしながら、新しい環境、人間関係など楊梅幼稚園有隣園舎での保育を進めていくには様々な課題が考えられる。その課題をマイナスととらず、新しい幼稚園を始めるとい希望や喜びにつながるものとしてとらえ、子ども、保護者、地域、教職員がいっしょになって作り上げていく取組になるようにしていきたい。